

野尻湖の自然とその魅力

野尻湖ナウマンゾウ博物館 近藤洋一

野尻湖は、長野県で2番目に大きい天然の湖です。標高654m、湖の面積4.56 k㎡で、もっとも深いところで38.5mあります。

野尻湖ができる前は、斑尾山山麓に大きな谷がありました。今からおよそ7万年前に黒姫火山山麓に岩屑なだれが発生し、この古い谷がせき止められて古野尻湖が誕生したと推定されます。その後、黒姫火山の活動に呼応するように、現在の野尻湖の西側が隆起しはじめ、しだいに湖の地形が形成されたと考えられます。野尻湖の底に堆積している地層にはさまざまな歴史の証拠が隠されています。早稲田大学や信州大学の研究者の方々や野尻湖発掘調査団が行ってきたこれまでの調査結果と、50年にわたる野尻湖底の発掘の成果を総合することにより、氷河時代の野尻湖の姿がしだいに解明され、世界的な気候変動との関連性が検討されています。

2013年3月に発掘調査団が行った調査では、これま

※（編集者注：ご本人の了解を得て、公開セミナー講演要旨集の一部を省略し、転載しました）



野尻湖と黒姫・妙高火山

で発掘していた場所より南に800mも離れた場所からナウマンゾウの臼歯化石とジャジクモ科の孢子化石が見つかりました。それは現在絶滅危惧種に指定されているホシツリモの仲間と考えられています。ホシツリモは、野尻湖水草復元研究会のみなさんが、湖に復活させている水草です。全国の野尻湖発掘調査団友の会の会員が野尻湖の歴史を解明し、得られたデータをもとに、地域の住民が一度は絶滅してしまった水草を現在によみがえらせようと活動しています。

癒しの森と生物多様性地域連携

信濃町産業観光課 癒しの森・企業誘致係 小池克英

信濃町は、平成18年4月、第1期「森林セラピー基地」の認定を受けました。森林セラピーとは、森林浴の効果を科学的に解明し、心と身体の健康に活かそうという試みです。平成25年度現在、全国の53市区町村が認定されています。

平成15年からの信濃町の地域づくりビジョン策定では、町の資源を改めて見直す「あるもの活かし」の考え方からスタートしました。当時、町内の約7割を占める森林は保全・整備が行き届かず、言わば「負の資産」となっていました。しかし、「あるもの活かし」という発想の転換により、同事業の開始へとつながりました。現在は町内の農林、商工観光、医療分野などの様々な分野の代表の集まりからなる条例設置委員会「癒しの森事業推進委員会」によって方向性を検討しながら、地域が連携し官民協働体制で事業を展開しています。事業開始当初、活用されていなかった遊歩道を、森林セラピーコースとして再整備しました。現在は企業の力を借り、未整備林に手を加え、新たなセラ

※（編集者注：ご本人の了解を得て、公開セミナーの講演要旨集から一部を省略し、転載しました）



ガイドと歩く森林セラピー

ピーロード開発なども行っています。森林セラピーコースは里山を走っています。里山活用の促進により、森林セラピーコースが緩衝林としての役割を果たし、人と動物の「棲み分け」にも繋がっています。

平成23年度から環境省の生物多様性関連補助金をいただき、外来生物データブックの制作を手掛けました。外来種についてお客様にお話しすることで、環境への意識を高めてもらう狙いです。森林セラピー事業は「人の健康」のみならず、「森林の健康」や「生きものの健康」とも繋がっている事業です。